

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 奈良女子大学附属中等教育学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒630-8305

奈良市東紀寺町 1-60-1

E-mail kenji@cc.nara-wu.ac.jp

Website http://www.nara-wu.ac.jp/fuchuko/

幼児児童生徒数 男子 357 名 女子 371 名 合計 728 名

幼児・児童・生徒の年齢 13 歳～ 18 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「自由で自立した人格の育成と社会的責任の自覚を養う」という学校理念のもと、「自由、自主、自立の精神を、シティズンシップ育成の視点から追求し、実践する」ことを目標としている。ESD の理念を、核として、総合学習や国際交流行事・生徒会活動などを組織・運営している。具体的には、総合学習である「探究・寧楽」「探究・世界」において、ESD の実践的な展開を目指し、身近な事象に対して多面的な見方を養い、自らが持続可能な未来を構築する生徒を育成することを目指している。また高校生国際会議を **Asian Youth Forum for Sustainable Future** として開催し、ESD の理念を核とした運営を行っている。

① 「世界遺産や地域の文化財等に関する学習」に係わる活動

探究・寧楽Ⅰ（1年）、探究・寧楽Ⅱ（2年）、探究・世界Ⅱ（3年）において、世界遺産学習を行った。幸いにも、奈良は、古都として文化財に恵まれており、フィールドワークを積極的に取り入れた活動を行うことができた。探究・寧楽Ⅰでは、主に世界遺産について調べ学習を行い、探究・寧楽Ⅱでは、「オリジナル『寧楽』ガイドをつくろう！～未来に伝えたい『寧楽』～」をテーマに、

「世界遺産都市」である奈良の魅力と課題について、班ごとにテーマを設定し、FW活動を通じて、理解を深めることができた。最後はポスター発表を行い情報の共有を図った。また、探究・世界Ⅱ（4年）では、地域が抱える課題を自ら発見し、その解決策を考える課題学習を行った。積極的にフィールドワークを実施し、商店街、行政、飲食店など、現場で働く人とのインタビューを通して、

② 「エネルギー学習」「環境学習」に係わる教育

探究・世界Ⅰでは、代替エネルギーをテーマの一つに取り上げ、生徒が実際に太陽電池を製作し、それを使って発電実験を行った。

③ 「国際理解」「防災」に係わる学習

アジア高校生国際会議 Asian Youth Forum for Sustainable Future を下記のように開催した。今回はテーマを「災害」として、各地域で防災や減災に関して各地域で抱える問題について発表し、resilient な社会の構築に向けて、これからの若者の役割について議論を深めた。

期間： 2017年7月26日（水）～8月2日（水）

参加校：

- | | | | |
|---|----------|----------------|--------|
| 1. SMA Al-Azhar Mandiri Palu | (インドネシア) | 生徒 5 名 | 教員 1 名 |
| 2. Sejong Academy of Science and Arts | (韓国) | 生徒 5 名 | 教員 1 名 |
| 3. SMAN 10 Samarinda | (インドネシア) | 生徒 5 名 | 教員 1 名 |
| 4. Busan International High School | (韓国) | 生徒 5 名 | 教員 1 名 |
| 5. SMK (P) Sri Aman | (マレーシア) | 生徒 5 名 | 教員 1 名 |
| 6. Guoguang Laboratory School | (台湾) | 生徒 5 名 | 教員 1 名 |
| 7. National Institute of Technology, Nara College | (日本) | 生徒 5 名、教員 2 名 | |
| 8. Nara Women's University Secondary School | (本校) | 生徒 21 名、教員 3 名 | |

テーマ：Disaster



①探究・寧楽Ⅰ（興福寺）



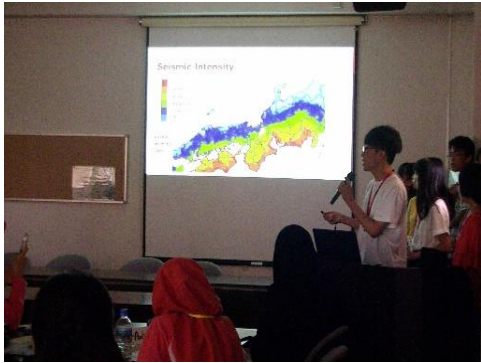
①探究・寧楽Ⅱ（ポスター発表）



②探究・世界Ⅰ（太陽電池）



②探究・世界Ⅰ（発電実験）



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 修学旅行)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

http://www.unesco.org https://www.unisdr.org/ http://www.resilience.org

② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程 (指導計画) にどのよう

に位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。(200～300字程度)

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ESD を軸とした総合的な学習を、1 年～4 年で設置している。

- 1 年 探究・寧楽 I
- 2 年 探究・寧楽 II
- 3 年 探究・世界 I
- 4 年 探究・世界 II

1・2 年では、郷土奈良を通して、見学・観察・聞き取りなどの調査活動を重視し、その活動の中で探究活動の学び方の基礎を学び、他者に伝えるための表現技法の習得を目指すしている。3・4 年では、個別教科の枠組みをこえた「環境」「健康」「人権」「平和」「文化」「言語」などのローカルイ/グローバルを往還するような視点から、主体的に課題設定し、その課題に対して、問題解決していくことができる力の育成を目指している。

③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項 1-4 に対応

分掌の一つとして研究部を設けている。研究部が中心となり、ESDを踏まえた教育実践に関して、先進的な取組みについての情報を収集すると共に、校内研修会を開催し、ESDの理念の共有と、その理念が実践に生かされるような支援をおこなっている。生徒指導部でも、ESDの理念を核とした生徒会活動を積極的に進めている。また別に設けられている学校経営委員会では学校運営の基盤整備および研究開発と教育課程に関する課題の検討、本校の将来構想に関わる学校運営・組織改革を構想し推進する。

④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度) s

※チェック事項 1-5 に対応

内部評価としては、毎年、生活状況調査を実施し、生徒の状況について把握に努めている。教員についても分掌・委員会・教員ごとに自己評価を実施している。また、外部評価として学校評議委員会および関係者評価委員会を年2回実施し、ユネスコスクールとしての活動の評価、検討を行っており、概ね高い評価をいただいている。国際交流行事などの実施時期などが検討課題である。

⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

特に、本校で開催した Asian Youth Forum for Sustainable Future については、本校の学園祭において特設ブースを設置し、ポスターや写真、ビデオなど、学外からの 2000 人以上の訪問者に見てもらえるようにした。また、本校のホームページ、PTA 新聞、同窓会誌にも活動報告を掲載し、保護者、卒業生にもその活動の実態と趣旨を理解してもらえるように努力している。学外の認知度も上がっている。

⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など)(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

Academic Guidance などを通じて、奈良女子大学と連携を行っている。また、国際理解の推進という観点から、AFS およびロータリーと連携し、留学生の受け入れや送り出しを行っている。今年度は、タイ、オランダ、カナダからの留学生を受け入れた。本校からも、ベルギー、カナダ、アメリカ合衆国、オーストラリア、ブラジル、フィリピンなどへ留学した。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

ユネスコスクールである Busan International High School (韓国) とは、姉妹校提携を結び、Asian Youth Forum for Sustainable Future や Global Forum を通して交流を継続的に行っている。特に、今年度は、Asian Youth Forum for Sustainable Future を本校で開催したため、BIHS の生徒を招聘して、「災害」について議論を深めることができた。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

今年度、Asian Youth Forum for Sustainable Future および Sakura Science Camp を本校で実施し、両プログラムで、本校生徒の保護者に協力を依頼した結果、50 家庭以上から応募があった。海外生徒のホームステイプログラムを実施した。国際理解や日本文化の発信という点で、海外の教員や参加者からも、たいへん高い評価を得ることができた。

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400 字程度）

今年度同様、以下の総合的な学習を実施する。

- 1 年 探究・寧楽 I
- 2 年 探究・寧楽 II
- 3 年 探究・世界 I
- 4 年 探究・世界 II

Asian Youth Forum for Sustainable Future

日時：10 月 20 日頃（未定）

場所：韓国

テーマ：The Fourth Industrial Revolution